



託北だより「あすなろ」No.60

「和」～敬・愛・信～

令和7年7月11日(金)

熊本市立託麻北小学校

文責：小倉 秀俊



HPコード

☀ 「子育て四訓」

7月10日(木)の授業参観には、たくさんの保護者やご家庭のみなさんに来ていただきありがとうございました。

また、学級懇談会では、熊本市のスクールカウンセラーで教育委員も務められている 澤 栄美(さわ えみ)先生に、「子育て」についてお話をいただきました。その中で、印象に残っているのが、次の子育て四訓です。

- 1 乳児は、肌を離すな。
- 2 幼児は、肌を離せ、手を離すな。
- 3 少年は、手を離せ、目を離すな。
- 4 青年は、目を離せ、心を離すな。

この話を聞いて思い出したことがあります。

問題行動を繰り返す中学生の母親から相談を受けた養護教諭が、次のようなアドバイスをしたそうです。

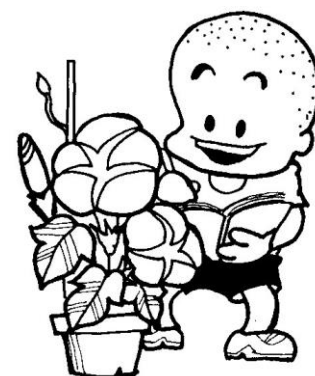
「しっかり抱きしめてあげなさい。」

中学生にもなって嫌がるだろうと初めは躊躇したそうですが、意を決して抱きしめたところ、すぐにではありませんが、少しずつ立ち直っていったそうです。

澤先生は、「子育ては幼児期から愛着基地を土台から積み上げていくことだ。」とおっしゃいました。土台が揺らぐとその上に積み重なった少年期や青年期が不安定になります。抱きしめたお母さんは、土台づくりをやり直すことで、子どもの更生につながったのではないかと思います。

また、最後の「親と子は別の人格」という言葉も、胸に刺さりました。ランドセルのCMで、最初は親が望むランドセルを選ぶ子どもが、実は全く別の色や形のランドセルを望んでいたという映像を見せていただきました。価値観のおしつけによって至る所で子どもの自立心の芽を摘んでいやしいかと考えさせられました。

「子どもは子どもなりの考えを持っている。」ということを念頭に、「共有型のしつけ」で、自己決定を促し、自分に責任を持たせることが大切だということを改めて教えていただきました。



☀️ 「世界に誇れる給食」

既にご承知の通り、最近の酷暑を受けて、食中毒や調理員の熱中症予防のため、7月9日（水）から7月17日（木）までの給食のメニューが変更になっております。ご理解の程よろしくお願いたします。

さて、校長の仕事の中に、「検食」があります。子どもたちに安全な給食を提供するために、予め校長が確認することになっています。もし、異変を感じたり確認したりしたら、そのメニューは提供できません。しかし、今まで、検食により、給食を止めたことはありません。栄養教諭や調理員のみなさんの弛まない努力の賜です。特に、夏の酷暑の時期や厳冬の時期は大変です。いつも感謝をしながら食べています。

ときどき子どもたちから「校長先生は、早く給食を食べられていいな。」と言われることがあります。おいしいのは嬉しいのですが、それ以上に子どもたちの健康に責任がありますので、いつも真剣に食べています。食後には、チェック表に記入し、気づいたことも書きます。料理の特徴や味について表現するのはなかなか難しいです。食レポの大変さがよくわかります。給食は、栄養の面だけでなく、健康面や、食を通じた様々な文化についても学ぶことができます。他国にはない世界に誇れる学校文化だと思います。



コーヒーブレイク



夏になると思い出すのが「茗荷（みょうが）」です。冷ややっこの上に添える薬味として使われることが多い食材です。苦みと辛味に、独特の風味が絡まって、淡白な豆腐にはうってつけのアクセントになります。しかし、私は、この茗荷が苦手でした。実家の裏に茗荷が群生していて、夏になると、至る所に登場します。中でも困ったのは、毎日食べるみそ汁です。好き嫌いが厳禁だった我が家では、残すことなど考えられません。そこで、引き戸を開けて、こっそり捨てていました。しかし、しぶとい茗荷の味は、しっかりと染みついており、一気にのどに流し込むのが常でした。ところが、いつの頃からか茗荷が好きになりました。酢漬けにしたものを丸のまま食べることもあります。大人になって味覚が変わったのか。鈍感になったのか。自覚がありません。何とも不思議です。古い母屋の解体とともに、茗荷の群生もなくなりましたが、茗荷を口にすると、懐かしい食卓の風景が蘇ります。